

輸入検疫で発見された主な重要病害

アカシア類斑点病（仮称）
 学名：*Cylindrocladium pauciramosum*
 C.L. Schoch & Crous
 （有性世代：*Calonectria pauciramosa*
 C.L. Schoch & Crous）
 英名：*Cylindrocladium* leaf spot

本病は、我が国未報告の糸状菌による病害である。我が国の輸入検疫で、2007年にオランダ産ハリアカシア苗から、その後ユーカリ苗から発見された。本病罹病植物は、葉の斑点を始め、枝のかいよう、根や地際部の腐敗等の症状を生じ、激しい被害を生じたとの報告もあるため、発生地域から輸入される宿主植物苗の検査は、本病の病徴に留意して行う必要がある。

分布 アフリカ南部、ヨーロッパ西部、オセアニア、南北アメリカ大陸等の温帯地域。

宿主植物 マメ科（アカシア属）、フトモモ科（ブラシノキ属、ユーカリ属、メラレウカ属、フェイジョア属等）、ツツジ科（ツツジ属、アルブツス属等）の植物。

病徴など アカシア類などでは初め、葉及び茎に褐色～暗褐色で円形～楕円形の小斑点を生じ（図A及びB）、その後拡大して暗褐色～灰褐色輪紋状となり、罹病葉は早期に落葉する。フトモモ科のメラレウカ属やフェイジョア属、ツツジ科のアルブツス属等では、根や地際部の腐敗症状が見られる。

病原菌 有性世代（*Calonectria*属）は子のう菌に属する。無性世代の分生子柄は、直立、無色で、帚状に2～3回分枝した後、先端に2～6個の分生子形成細胞を生ずる。また、分生子柄の一部は長く伸張り、先端に倒洋なし型～楕円形の頂のう（直径7～9μm）を形成する（図C及びD）。分生子は多数塊状に形成され（図C）、無色、頂端が丸い長円筒形、1隔壁、大きさ45～55×4～5μm（図E）。なお、輸入検疫では有性世代は発見されていない。

伝搬 これまでに本菌の伝搬方法を記載した文献はないが、他の*Cylindrocladium*属菌による病害と同様、罹病植物上に形成された胞子の風雨による飛散や、罹病植物の移動、罹病植物残渣による土壌伝搬が考えられる。

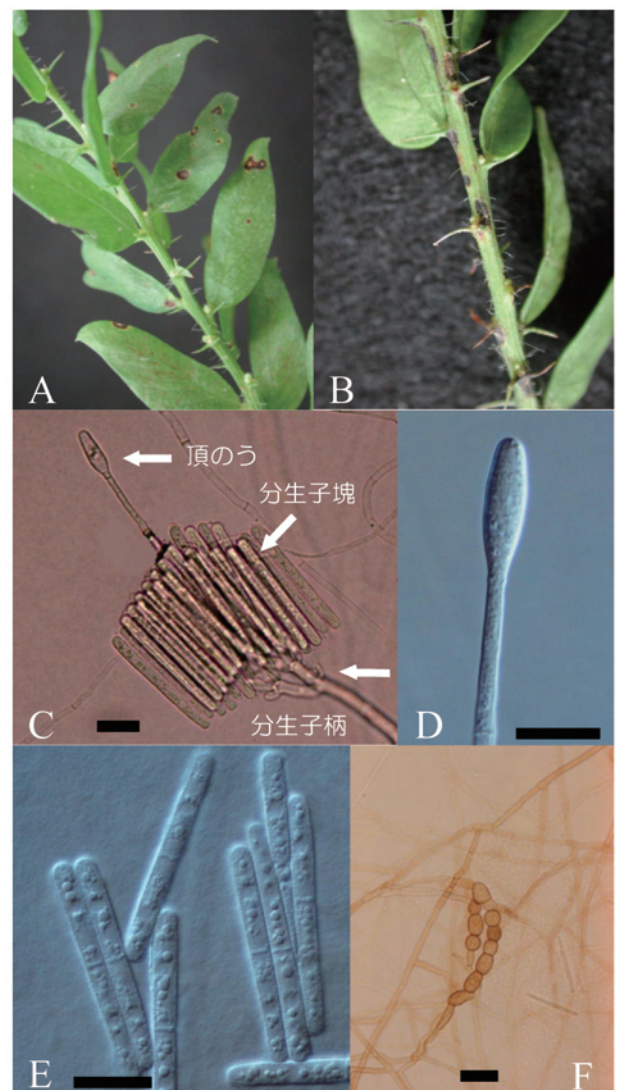
識別 アカシア属植物の病原として知られる我が国未報告の本属菌は、本菌の他、*C. parasiticum*（=*Calonectria ilicicola*）、*C. theae*（=*Calonectria induciata*）等があるが、頂のうの形状、分生子の

隔壁数、分生子柄の分枝回数、有性世代が存在すればその形状でそれらとは識別できる。

また近年では、塩基配列の比較等、遺伝子診断技術も開発されている。

被害 オーストラリアでは、苗生産業者が栽培しているメラレウカ属苗が全3千本中90%も発病又は枯死し、イタリアでも計1万本のフェイジョア苗が激しく萎凋したとの報告がある。

防除法 これまでに本菌の防除方法を記載した文献はないが、他の*Cylindrocladium*属菌による病害と同様、薬剤を用いた防除が有効と考えられる。



A及びB：輸入ハリアカシアの葉（A）及び茎（B）に生じた斑点症状、C：分生子塊及び伸長後先端に頂のうを形成した分生子柄、D：分生子、E：頂のう（拡大）、F：分生子（拡大）、
 F：厚壁胞子、bar：20μm